

「奄美大島宇検村芦検出身者の U ターン移動の特徴と発生要因」 ……………鄭美愛（神奈川県・非）
 「都道府県人口の変化と自然増加・社会増加との関係」 ……………山神達也（立命館大）
 （山内昌和記）

第26回国際人口学会大会

国際人口学会（International Union for the Scientific Study of Population）は、4年毎に大会（International Population Conference）を開催する。その第26回大会が2009年9月27～10月2日にモロッコのマラケシュ市で開催された。会議では英語とフランス語が公用語とされ、前回公用語だったスペイン語の同時通訳は提供されなかった。またモロッコはフランス語圏ではあるが、さすがに前回（2005年）のフランス開催時に比べるとフランス語の比重が減り、英語への一本化が進んでいる印象を受けた。

大会ホームページ（<http://iussp2009.princeton.edu>）によると、ポスターセッションを含む報告登録者は2,766名にのぼった。これらがすべてマラケシュを訪れたわけではないが、一方で報告を行わない参加者も大勢あったことから、2,000名以上の参加者があったのではないかと思われる。当研究所からは佐藤龍三郎（国際関係部長）、金子隆一（人口動向研究部長）、岩澤美帆（同第三室長）、暮石渉（社会保障基礎理論研究部研究員）と筆者が参加した。

正規部会数は前回のフランス大会の161から大幅に増え、224部会にのぼった。これらを筆者の独断で分類すると、次のようになる。

理論・方法論	27	経済・環境	31
出生・生殖	36	社会・文化	19
結婚・家族	24	地域研究	19
死亡・疾病	33	その他	8
移動・分布	27		

理論・方法論に分類したのは、確率論的推計を含む人口推計の方法論やGISのような空間的アプローチ、パネル調査の利用といった部会である。出生・生殖に含めた部会には、途上国の高出生力に関する部会も依然として多いが、最近の動向を反映して先進国の低出生力問題を扱う部会が増えた。結婚・家族に含めたのは、結婚を含む若者のユニオン形成やジェンダー関係・世代間関係に関わる部会である。死亡・疾病ではHIV/AIDSに関する部会が目立つが、性差や階層差に関する部会も見られた。移動・分布では国際人口移動の部会も多いが、やはり都市化・開発・環境破壊と関連する国内移動関連の部会数が上回った。経済・環境に含めたのは貧困と開発、人口高齢化と社会保障、気候変動や水資源といったトピックである。社会・文化には宗教やジェンダーに関する部会を含めた。地域研究はほとんどがアラブ諸国に関する部会だが、「ラテンアメリカの人口転換」「アジアの人口変動」といった部会もあった。

閉会式では韓国が次回大会の開催に立候補した。他に立候補の表明がなかったので、2013年の大会は釜山で開催される可能性が高いと見られる。（鈴木 透記）